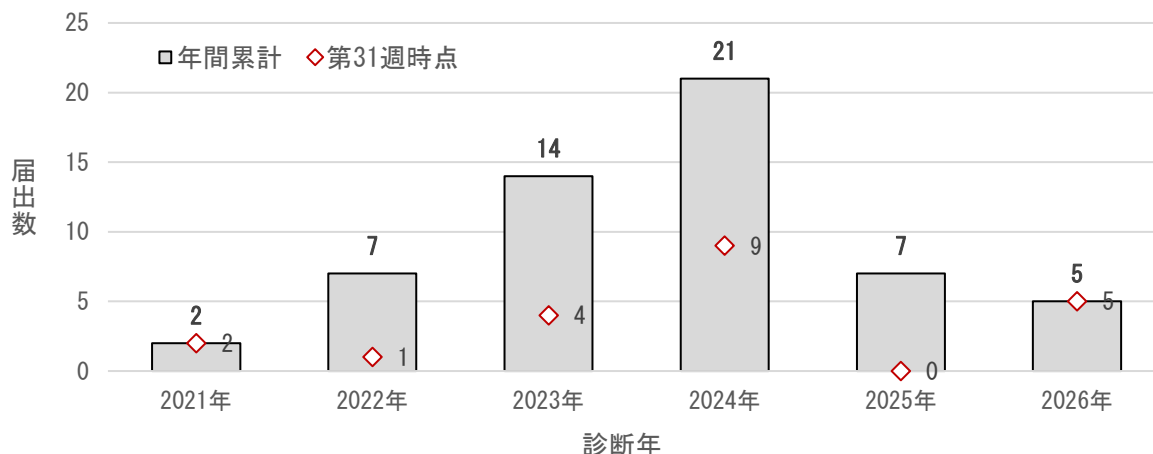


## 【今週の注目疾患】

## 《デング熱》

2026年第31週に県内医療機関から2例の届出があり、累計は5例となった（図）。5例の推定感染地域はいずれも国外（アジア地域4例・オセアニア地域1例）であった。

図：2021年から2026年までの県内のデング熱診断年別届出数  
（2026年第31週時点、56例）



2021年から2026年第31週までに県内では56例のデング熱の届出があった。

性別は、男性40例（71%）、女性16例（29%）であった。年代別は、20代が18例（32%）と最も多く、次いで30代が13例（23%）であり、30代以下が約7割を占めた。病型は、デング熱が55例（98%）、デング出血熱が1例（2%）であった。推定感染地域は、56例全員が国外であり、そのうち8割以上がアジア地域であった。

全国では、2026年6月に6例のデング熱輸入症例が届出されており、推定感染地域は、スリランカ3例、モルディブ1例、ベトナム1例、マレーシア1例であった。直近12か月（2025年7月から2026年6月まで）における推定感染地域として多い上位4か国は、インドネシア、インド、フィリピン、ベトナムであった<sup>1)</sup>。

デング熱はデングウイルスを病原体とする感染症である。主な感染経路は、ウイルスを保有したネッタイシマカやヒトスジシマカなどの蚊に刺されることによる。ヒトからヒトへの直接的な感染はない。潜伏期間は、2日から14日程度である。発熱、発疹、関節痛、筋肉痛などの症状を呈する（デング熱）。多くの場合、後遺症を残すことなく回復するが、時に出血症状や意識障害を呈し、多臓器不全により死亡する場合もある。このような病態は重症デング熱と呼ばれ、デング出血熱、デングショック症候群等が含まれる<sup>2,3)</sup>。

デング熱の予防には蚊に刺されないようにすることが重要である。海外の流行地へ渡航する際には、露出した皮膚には虫よけ剤を使用する、長袖のシャツや長ズボンを着用してできるだけ肌の露出を避ける、屋内では網戸やエアコンを使用して蚊の侵入を防ぐ、就寝時や昼寝の際には殺虫剤処理された蚊帳を利用する、などの対策がある。また、渡航中や帰国後に発熱や体調不良を感じた場合には、速やかに近くの医療機関を受診し、渡航先や渡航期間、渡航先での活動を伝えることが重要である<sup>4,5)</sup>。

■参考・引用

- 1)国立健康危機管理研究機構：日本の輸入デング熱症例の動向について  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idss/target-diseases/dengue-fever/imported/index.html>
- 2)国立健康危機管理研究機構：デング熱  
<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/dengue-fever/index.html>
- 3)国立健康危機管理研究機構：IASRデング熱・デング出血熱 2015から2019年  
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/dengue-m/dengue-iasrtpc/9691-484t.html>
- 4)厚生労働省検疫所FORTH：デング熱－世界の状況  
[https://www.forth.go.jp/topics/2024/20240610\\_00001.html](https://www.forth.go.jp/topics/2024/20240610_00001.html)
- 5)千葉県健康福祉部健康福祉政策課：デング熱関連情報  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/mos-borne/dengue.html>

【Topics】

《夏休みに海外へ渡航される皆様・渡航された皆様へ》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください<sup>1,2)</sup>。予防接種の種類によっては、数回（間隔を開けて 2、3 回）接種しなければならないものもあります。そのため、海外に渡航する予定がある場合には、なるべく早く（できるだけ出発 3 か月以上前から）、トラベルクリニック、渡航外来等の医療機関で、接種するワクチンの種類と接種日程の相談をしてください<sup>3)</sup>。

また、感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が数日から 1 週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝えた上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください<sup>4)</sup>。

■参考・引用

- 1)厚生労働省：海外へ渡航される皆様へ  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/kenkou/kekaku-kansenshou18/index\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekaku-kansenshou18/index_00003.html)
- 2)厚生労働省：夏季休暇の海外渡航者に対する感染症予防啓発について（協力依頼）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001725071.pdf>
- 3)厚生労働省検疫所 FORTH：海外渡航のためのワクチン（予防接種）  
[https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful\\_vaccination.html](https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html)
- 4)厚生労働省検疫所 FORTH：海外へ渡航される皆さまへ！  
[https://www.forth.go.jp/news/20220722\\_00001.html](https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html)